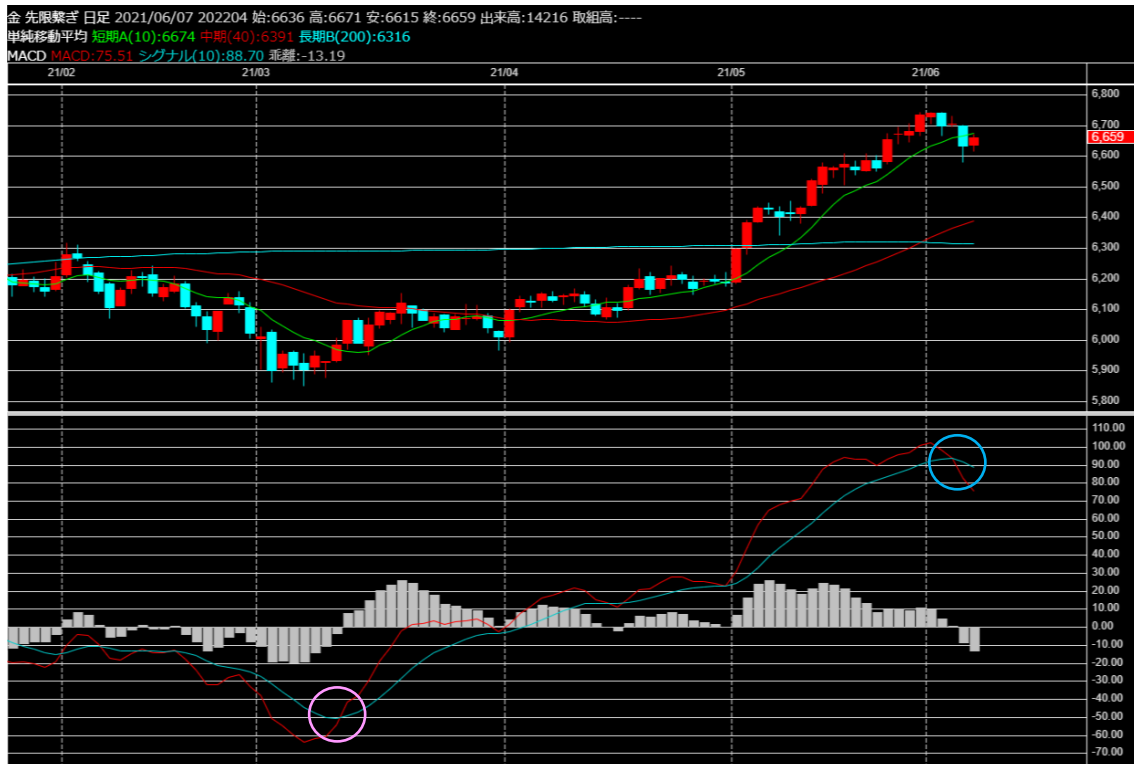


＜金標準、テクニカル（MACD）の転換＞



（出所：オアシス）

先週に ADP 雇用統計が事前予想の 65 万人に対して 97.8 万人と大幅改善を示し、16 日の FOMC を控える中でテーパリングに対する早期の協議開始の観測が高まりを見せ、金利高：ドル高の影響から金標準先物は 6581 円まで下落している。

しかし週末に期待された雇用統計では、非農業部門就業者数が事前予想を下回る 55.9 万人増となり、想定外の結果を受けて市場は金利安：ドル安の巻き戻しから金標準先物は 6671 円まで戻りを見せている。そのため経済指標のイベントが終わり、次は 10 日の ECB 理事会、16 日の FOMC へと金融政策に要因は移行する動きと予想される。特に ECB 理事会は、5 月にラガルド ECB 総裁は「6 月の理事会では大きな変更はない」と言及しており、FRB のテーパリングの話題性は残っている市場だけに為替市場ではユーロ売り：ドル買いの動きが強まる環境下である。そのため今週の金標準先物は戻り売りの値動きに備えて、6700 円以上は売り対応が無難と思える。

（2021 年 6 月 6 日記載）

＜テクニカル＞

MACD を見ても **MACD** と **シグナル** が +90% を超え場面で **MACD** が **シグナル** を下回るクロスサインを示し、**MACD** と **シグナル** の乖離を示すヒストグラムも必然的にマイナスサイド移行した状態であり、大勢感の下向きに変化した可能性が高い。また日足が **10 日移動平均線** を下回っており、今後 **10 日移動平均線** の上昇が止まる可能性も高く、戻り売りの値動きが予想される。